



《一部》映画「水俣病—その20年—」上映 14~15時 土本典昭監督 1976年(43分)

1956年当時、水俣病は奇病といわれた。主に漁村部から次々と発生し、街の人びとは伝染病として忌み嫌った。ネコを使った動物実験等を手がかりに原因究明の努力が続けられたが、初期の患者たちの多くは次々と死んでいった。この頃、日本はひたすら高度経済成長路線をまっしぐらに突き進んでいた。日本最大の化学工場チッソは不知火海の手前で酢酸・アセトアルデヒド、塩化ビニールなどを作りつづけ、海に有機水銀を流してきた。しかし、政治・経済の中心地東京から水俣はあまりに遠かった。チッソの排水が水俣病の原因と公式発表されるまで13年かかったのである。公式発表の前も後もチッソは水俣病の責任を回避しようとする。患者やその家族たち自らが立ち上がるしかなかった。1973年、水俣病裁判が終わった。チッソに加害責任が申し渡された。この裁判闘争をはじめとする患者たち自身の闘いの中から、潜在患者が浮かび上がってきた(1976年現在、申請者三千数百人)。そのほとんどが慢性型水俣病の多様な症状を訴えている。<配給元 (株)シグロHPより <http://www.cine.co.jp>>

会場参加の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、やむをえずイベントを中止しなければならない場合もございます。そのため、大変恐縮ではございますが、事前予約なくお越しになる際には、Facebook や E-mail、お電話などで、必ず開催の有無をご確認の上、お越し下さい。当日は、ホールの座席数を通常の半分に減らして座席の間隔をあけます。受付では、お名前とご連絡先のご記入にご協力下さい。また、会場内は換気をこまめに行いますので暖かい服装でお越し下さい。二部では、オンライン交流のため、会場内を録画致しますこと予めご了承下さい。



《二部》オンライン交流 15~16時

会場と一般社団法人「きぼう・未来・水俣」、ZOOM参加者をオンラインで繋ぎ、胎児性水俣病患者から見た水俣を、患者さん自ら語って頂きます。映画の背景となる70年代から今日までの、水俣病患者をめぐる状況がどのように変遷してきたか、映画の鑑賞とお話を伺うことで、水俣の過去と現在を知り、これからの水俣、そしてこれからの日本を考える一助になればと思います。会場とZOOM参加の皆さまの声も水俣にお届けし、双方向のやり取りで交流を深めます。

一般社団法人「きぼう・未来・水俣」
<https://kiboumirainamata.org/>

2020年4月創設。水俣病胎児性小児性患者が集う事業所、困難を抱えた人達に拓かれた交流の場。歴史の証人として水俣病事件を語り伝えている。

ZOOM 参加の皆さまへ

当日ご来場出来ない方で、二部のオンライン交流会に ZOOM での参加をご希望の方は、お申し込みフォーム又は所定のメールアドレスまでご連絡下さい。イベントの日が近くなりましたら、参加用 URL を返信致します。一部の映画配信はございません。参加費無料。お申し込みは、3月2日(水)までをお願い致します。

当日は、会場入口付近で、水俣病患者と支援者が作った農薬不使用の甘夏と水産加工品の販売を予定しています。売上の一部は、水俣病・東海の会の活動資金にもなりますので、是非この機会にご購入をお願い致します。また、オンライン交流会の後、30分程、共催・協賛団体の簡単な活動紹介と、アンケート記入、会場参加者同士の情報交換など

の時間に当てたいと思います。お時間の許す方は、こちらもどうぞ参加下さい。



会場アクセス

ソーネおおぞね

名古屋市北区山田 2-11-62 大曾根住宅 1 棟 1F

※お越しの際は、出来る限り公共交通機関をご利用下さい。



「大曾根」駅 徒歩 約 12 分
JR 中央線 北口
地下鉄名城線 5 番出口
名鉄瀬戸線

「平安通」駅 徒歩 約 12 分
地下鉄名城線・上飯田線
5 番出口

「上飯田」駅 徒歩 約 15 分
名鉄小牧線 2 番出口

